さい。そしてまた、避難を早めにしてくださいといったような情報共有等々と、早めの避難の呼びかけ等をするような形で、自主防災組織の組織固めを進めておりますので、これがもう少し、今４０数%ですけども、もう少しこれが組織が増えてくれば、そのようなちょっと心配に対しても有益でないのかなというふうに思っているところでございます。

○議長（春田　新一君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　瀬川のことについては、以上で質問は終わりまして、入会林野の共有物件に対する治山事業等における、施工における前の通常の登記の処理、事業ができるための登記の処理が、手を挙げればそういう対応をいたしますというふうなことを関係する集落のある集団に、一応そういう方向で市も前向きに取り組むというふうなことで、皆様方のまとめをきちっとしてくださいよという報告はしてよろしいでしょうか。

具体的にあります。これは、私は個人ではし切らんですよ、ずっと見とるばってん。だから私は、この際やっぱり、そういう物件があって危険な箇所に家が隣接しておれば、じゃんじゃんやらないかんと思いますね。

非常に前向きな答弁で私も安心しましたので、このことをはっきりしてくれればいいがなと思っとったんですが、そういう市長の答弁でございましたので、５分もありますが、この辺で質問を終わりとします。どうもありがとうございました。

○議長（春田　新一君）　これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　昼食休憩とします。再開は午後１時５分からとします。

午前11時36分休憩

午後１時05分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　改めまして、皆様こんにちは。お疲れさまです。１３番議員、波田政和でございます。議場内の皆様、お疲れのこととは思いますが、私で最後の質疑でございますので、時間までお付き合いください。

今回は３項目通告しておりますが、今回の質疑は、市民皆様方からの問題の指摘であります。他方面にわたり、後ほど一問一答の場面が出てくると思いますので、市長におかれましては、市民の皆様方に分かりやすく、明確なる答弁を頂けることに期待し、質疑に入らさせていただきます。

まず、１項目めの対馬市観光振興推進計画策定についてであります。

これまでの成果を観光推進部で検証なされたのでしょうか。検証結果が出ていましたら、説明を求めます。

また、この度、更なる観光推進のため、公募金７７０万円相当を計上し、プロポーザル方式により、広く一般から募集し、新規参入のハードルを下げることで、公平性が高く、事業者の選定がなされたものと思っておりますが、しっかりとした費用対効果の実証に期待をしておきます。

御案内のとおり、私ども、これまでも議会において、国内外からの観光客の皆様方が、旅の印象が心に残り、リピーターを増やすため、議会質疑でお尋ねしておりますが、観光推進部の目線で、取組や進捗状況など、代表的な案件などございましたら重ねて御紹介ください。

次に、仮称ではございますが、高浜市営団地についてお伺いします。

建築は完成しているようですが、外構工事が未完成のため、入居募集ができないとのことですが、発注前に担当部をはじめ執行部も理解をしていたはずではないのでしょうか。

また、募集予定者の方々へ広く周知がなされていたのでしょうか。

また、私が建設計画や概要説明の中で聞き逃していたかもしれませんが、通常、民間では考えにくいことであり、回収や返済など、契約はないものなのでしょうか。

私がこの話を聞いたときに、説明では、住宅の老朽化による建て替えで早急な対応の必要があったみたいに思いましたが、いかがでしたでしょうか。

３点目でございます。長年の懸案であり、市長就任時のときより、幾度となく状況を確認しながら進捗を伺ってきましたが、そろそろ着地しようではありませんか。いかがでしょうか。十年一昔のことわざもあり、過去の案件にならないため、現実を直視し、今回取り上げてみました。

これまでに問題となっておりました耐震基準も、月々とともに緩和なされたのでしょうか。何もなかったように歳月は流れてきておりますが、以前のままだったとするなら、行政が基準違反と知りながらの運営では、市民の皆様方の安全性は確保できず、他の行政処分がやりにくくなることを心配をしております。詳しくは再質問のときに重ねてお聞きします。

以上で、通告の内容でございますので、よろしく御答弁お願いしておきます。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市観光振興推進計画策定へ向け、市の考え方を問うとの御質問でございますが、対馬市観光振興推進計画策定につきましては、現計画が令和８年度で終了すること、また、国や長崎県の観光振興推進計画が示されたことから、令和８年度中に、令和９年度から令和１３年度の５年間に実施すべき計画の策定に向け、現在取り組んでおります。

対馬市では、これまでも観光振興を総合的かつ計画的に推進するため、対馬市観光振興推進計画を策定し、観光施策に取り組んでまいりました。しかしながら、近年の観光を取り巻く社会情

勢や観光需要は、目まぐるしく大きく変化しており、国内観光客の動向やインバウンド観光の回復、持続可能な観光地域づくりへの対応など、新たな課題への対応が求められております。

このため、本市の観光資源や観光を取り巻く現状及び課題を整理・分析するとともに、観光関係団体や市民の意見を踏まえながら、本市の観光振興の方向性及び具体的な施策を体系的に整理し、新たな対馬市観光振興推進計画策定に今後も取り組んでまいります。

また、議員提案についての進捗状況についてでございますが、これまでも議員の皆様からは、一般質問等で数々の御提案を頂いてきたところですが、私が、それらの質問に対しまして、実行してまいりますや、取り組んでまいりますなどの回答をした案件につきましては、提案内容について、各担当課などと協議検討しながら実行に取り組んでまいりました。

しかしながら、当然全ての提案を実行できたわけではなく、検討段階で課題等が克服できず、実行に移行できなかった案件も残念ながらあったこともございます。

また、現在も進行している事案につきましては、議会答弁等事案対応経過報告書により誠実に対応させていただいております。

観光に関しての成果としましては、韓国人観光客ばかりに頼らず、日本人観光客誘致にも力を入れるよう、委員皆様から質疑があっておりましたが、このことにつきましては、市も同様の見解でございましたので、コロナ禍で皆減状況であった国内の観光客を取り戻すべく、新型コロナウイルス感染症が５類感染症になって以降、強力に旅行商品造成や旅行会社へのセールスなどＰＲ事業に取り組み、国内客を含めた観光入り込み客数は、コロナ禍前の令和元年程度に回復しております。

今後も、国内のみならず、インバウンドと合わせた両輪で観光客の集客に取り組み、対馬の経済発展に取り組んでまいります。

次に、美津島町の中対馬病院跡地において進めております雞知団地建設工事に伴う入居時期についての御質問でございますが、本事業は、対馬市公営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化が進んでいる雞知地区の４つの市営住宅団地を建て替え、集約化するものであり、維持管理費の縮減並びに安全で快適な住環境の提供を図るものでございます。

議員御指摘のとおり、入居を心待ちにされている市民や地域の皆様の気持ちは、容易に推察されるところであり、貴重な病院跡地を有効に活用し、地域における安全安心な生活基盤を確立すべく事業を進めているところでございます。

全体計画としては、A棟からG棟までの計７棟、全６０戸を予定しており、その第一段階として、令和８年３月にA棟・B棟の建物本体が完成いたしました。建物は完成しているものの、現時点で入居募集に至っていない理由といたしましては、国庫補助金の関係に伴う外構工事の遅れと、完成後に受ける法令に基づく諸手続が未実施であるためでございます。

公営住宅の供用開始に当たっては、排水路や敷地内道路などの外構工事の完了に加え、開発行為の完了検査や、建築確認の諸手続が不可欠となっております。令和８年度中におきましては、遅延している外構整備を計画的に進め、全ての検査及び手続が終了次第、速やかに入居募集等の手続に移ってまいります。

入居を楽しみにされている皆様には、もどかしい思いをさせますが、何とぞ御理解をお願いいたします。

現在完成しているＡ棟・Ｂ棟に続くＣ棟からＧ棟までの残り５棟の整備方針といたしましては、今後、順次建設を進めてまいります。次期事業におきましては、建物と外構工事を同時施工することで、建物完成後、速やかに入居が可能となるよう計画的に事業を推進し、令和１６年の入居をもちまして、全棟の建て替えを完了させる予定でございます。

ただし、昨今の資材価格や人件費の高騰など、建設業界を取り巻く環境は依然として厳しく、今後の社会情勢の動向によっては、事業進捗に影響を及ぼす可能性もございます。市といたしましては、物価高騰等のリスクを注視しつつ、コストと工程の管理を行ってまいります。

雞知地区の新たな安心の住まいを確実にお届けできるよう、本事業を着実に推進してまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、３点目の対馬市本庁舎の建設に関する進捗についてでございます。

本庁舎の建設・建て替え問題は、合併以来、本市における長年の懸案事項となっており、市民の皆様の安全安心並びに災害時における拠点機能の確保という観点からも、一刻も早い方向性の確立が必要であると強く認識しているところでございます。

令和５年１１月に、公募委員や各種団体の代表者といった外部委員等で構成される市役所厳原庁舎整備等検討委員会から、慎重な審議を重ねた検討結果の御報告を頂きました。これを受け、令和５年１２月の定例会において、現時点で私が考える厳原庁舎の今後について、一定の方向性を示す重要な３つのポイントを御提示させていただいたところであります。

その内容といたしましては、１点目に、耐震補強ではなく、庁舎の新築建て替えを実施すること、２点目に、原則として本庁機能集約方式とすること、３点目に、厳原市街地において建て替えを実施することでございます。

次に、庁舎建設の総事業費につきましては、仮庁舎の設置費用等を含め、約８０億円から１００億円と試算されており、市としては、その半分に当たる４０億円から５０億円程度を目標に基金を積み立てることとしております。

この総事業費は、新庁舎の規模や建設場所等により大きく変動する可能性もございますが、多額の財源が必要となることから、令和２年度より庁舎建設整備基金の積立てを開始し、令和７年度末現在の基金残高は約１４億円となっている状況でございます。

今回質問を頂きました詳細な建設場所の決定や着工年度などにつきましては、現時点で明確に公表できる段階にはございません。しかしながら、市の財政負担を最大限軽減するため、国や県からの補助金・交付金等の活用を粘り強く模索しながら、当面の間は基金の積立てを着実に進めていく考えであります。

また、平成３０年度に実施した耐震診断において、現行の耐震基準を満たしていないことが判明しており、早期の根本的な対策が必要であることは十分に認識しております。しかしながら、これまでは市の財政状況などを勘案し、具体化に至っていなかったのが現状でございます。

本庁舎の整備は、市民の皆様の命と暮らしを守る基盤であり、決して先送りにしてよい問題ではございません。したがって、本格的な建て替えに至るまでの間におきましても、市民の皆様や職員の安全確保を最優先に考え、什器備品の固定や避難ルートの再徹底など、できる限りの対策を迅速に進め、庁舎の安全確保に努めてまいります。

今後とも、財政健全化とのバランスを緊密に図りつつ、市民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、一日も早い根本解決に向けて全力を尽くしてまいります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ありがとうございました。

それでは、通告の順番を変えまして、高浜雛知団地の件から再質問したいと思いますが、よろしいでしょうか。

市長の今の答弁では、外構と同時発注ができなかったので、早期の入居はできないんだと結論づけられたようにありますが、冒頭にも話しますように、同時発注がなぜできなかったのか疑問なんですね。一般人から考えますと。それは、諸般の事情を今聞きましたが、要は、この計画そのものは、説明では間違いなく老朽化と、住んである方の安全性をと言われたと思っていますが、間違いございませんね。

そういう中で、今の説明で６０戸建てるという話でございますが、あの場所は新興住宅地と違って、地域一等地ですよね。皆様が全員、島内をはじめ、観光客も含めてそうでございますが、目に入る場所でございます。早期にモデル地区みたいなものをつくるぐらいな気持ちでやっていただきたい。今の答弁では、次年度からは同時でスタートするから、完成年度までにはできるだろうという話でございますが。

ちなみに、一般人の考え方なんですが、家賃を少し触れさせとってください。詳しくはよく分かりませんが、対馬市の住宅状況では、市の住宅状況といいますか、同居家族合算で家賃が決まりますよね。大体ですね。その中で優先順位が本当で守れるかどうか心配なんですね。雛知、奥の団地を優先するといいますが、あの建物でございますので、安くは入れんと思うんですよね。

総工費から計算しましても分かりますが、果たしてそういったことが優先順位で入れるものなのかということを一点ちょっと教えてくれませんか。どうでしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　建設部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（春田　新一君）　建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田　武茂君）　お答えさせていただきます。

結論から言いますと、優先して入れるように考えております。今のところ、４つの団地のうち上の町団地が一番古く、昭和４６年にできております。古い建物とか同居の状況、建物も２ＤＫと３ＬＤＫと、家族構成に応じた建物を作っておりますので、そこら辺を考えながら優先して入居できるように対応したいと考えております。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　そうでございますか。

それはそれとして優先は分かりますが、６０戸も建てるわけですよ。ちなみに優先では本当に返済できるんですか。やっぱり、この建設費用をかけて、それがどのぐらいの時期にどうなるかというぐらいのシミュレーションはかけてあると思うんですが、例えば平均４万円ぐらいの家賃を頂きましたとするじゃないですか。６０戸掛けたら１２０年、返済にかかるんですよ。これは異常じゃないですか。

それが６万円ぐらいになると、若干また半分ぐらい年数は下がりますが、一般と行政の考え方が深い溝があって、私はよく理解できません。そういったものをやるのに、理屈じゃなくて、市長が先ほど言いますように、老朽化で苦しんである方々をいち早くというスタートならば、少し考え方が変わってくる。

なぜかというと、この市営住宅というのは美津島町もあります。厳原町にもあります。あまり差があったらおかしいじゃないですか。平等と公平にやってもらわないと、その辺をちょっとお願いしておきたいなと思っております。

なぜこの話をするかと言いますと、返済に１００年もかかって、こんな事業を続けるべきかどうかというのも疑問じゃないですか。私は、市長の判断でなされたことに疑義は申しませんが、やっぱりこういったものを未来に残すことが本当に正しいのかどうかということを、今数字の話してますからね。いかがなものかなと思っているから取り上げております。

ましてや、やめろとは言えませんけども、やめるも政治決断でございますので、こういった多額のものを、あの一等地に建てながらやるべきかということを考えるのも、執行部の責任かなとも思っておりますので、耳の片隅に入れとってください。何かありましたら、この件で。市長、どうぞ。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに多額の経費はかかるということでございますけども、ただ、こういった老朽化住宅等を再度新たにまた建て替えていくということも、行政の責任でもあるというふうに思っておりますし、これまでも数々の住宅等が建てられてきております。

これは、あくまで旧町時代から町民、そしてまた、今になっては市民のためということで、その時々の議会等の承認も得てできてきたものだというふうに思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いをしたいと思っております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　考え方は理解しましたが、先ほど建設中止も視野に入れてなぜ言ったかといいますと、６０戸建てるということは、６０戸分民間を圧迫するという考えもありますからね、別の角度で考えたらですよ。

要するに、人口流出が止まらない、いろんな空き家が増える、この辺も含めたら、費用と効果が果たして正しいかということを考えることも大事じゃないかなと思いましたので、参考までに話しておりますので、どこかに気を止めとってください。

それでは、次の対馬市観光振興推進計画について入りたいと思います。

実は、今回この公募型で、こういう形でハードルを下げながら、民間の知恵を取り入れて、よりすばらしいものをつくり上げたいということであったと思いますが、冒頭に話しますように、今までのものを検証したのか、しなかったのかということなんですよ。

なぜかというと、物事のスタートというのは、検証から始まらんと、次の展開に行かないんじゃないかなと思いますが、そこの今年の以前の検証結果をもう一度説明してください。形がありますか。

○議長（春田　新一君）　観光推進部長、平間博文君。

○観光推進部長（平間　博文君）　波田議員の御質問にお答えいたします。

今回のプロポーザル方式で、民間の知恵を借りながら、プロポーザル方式で業者を選定しております。その仕様書の中に、現計画の検証を含めて、この仕様書を作っておりますので、過去５年間のこの現計画の検証を含めた上で、よりよい計画をつくっていくという方針で今回は進めております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ということは、市役所の職員は無能ということですね。自分たちで検証はしてないということですね。そういうことじゃいかんじゃないですか。

プロポーザルの基本的というのは、担当課と委託先と話合いをしながら、よりいいものをつくっていこうという柔軟な姿勢のはずなんですよ。しかし、そこを市役所の職員をはじめとして理解をしとかないと進まないじゃないですか。

この観光産業の在り方なんかは、ＡＩに聞いたら一発で出ますから。７００万円もかける必要は要らないと思いますが、先ほど７００万円の価値があるような結果に期待しますと言いましたので、それは期待しますが、まず出発点といいますか、その辺を明確にして、今、部長が言うように、検証結果も含めてやると。

ということは１期遅れていくじゃないですか。その辺もちょっと視野に入れながら、考えを早急にまとめながら進めていっていただきたいなと思っております。

この観光産業を盛り上げるためにはどうするのかというのは、いろんなＡＩを含めながら書物を読んでも、パターンは決まっています。対馬に独特なものができるかできないかは別ですが、できないはずなんですよ。いろんな計画ができる中で、だからどうするのかということなんです。物語は作れるでしょう。どうします、こうします。

私が一番懸念しているのは、現況を考えたときに、これから、要するにスタイルが変わっていくと思うんですね。変わりますからと書いてありますので、インバウンドの回復に伴ってです。新たな問題が出てくるから今回やるんだと書いてありました。部長でもいいですが、新たな問題とは何なんですか。何か特別何かあるんですかね。ちょっとそこを答えてください。

○議長（春田　新一君）　観光推進部長、平間博文君。

○観光推進部長（平間　博文君）　波田議員も御承知のとおり、現計画を策定したのは令和３年、令和４年度から５年間の計画となっております。この時期というのが、一番インバウンドが皆無の状態での計画策定となっております。今回現状、インバウンドも昨年１６万人、今年も５月末現在で１４万人、今後１年間で３０万人ぐらいと予想されております。

こういった中で、いかにインバウンドと日本人旅行客をバランスよく観光誘客をしていく、そういった方針、それとまた、対馬島内も人口減少により働き手の不足、そういった社会的な要因もございます。そういったのを含めまして、対馬市総合計画、アクションプラン、北部・南部・中部、そういったプランとの整合性を取りながら計画を策定していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　分かりました。

それでは、観光産業が違う形でシフトしていく中で、これからの時代は高付加価値化、要するに稼ぐ観光へ変わっていこうというスタイルになっていくと思うんですが、市長、ここでお尋ね

したいんですけどね。観光振興推進計画が策定されながら進む中で、食の文化とかいろんな問題、民間が、対馬島民がといいましょうか、自己判断決定で設備投資できると思ってありますか、どうですか。市長、答えてください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　設備投資の件でございますけども、有人国境離島法等の補助もございますので、こういったところを活用していただければ、ある程度のことはできるものというふうに思います。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　実は市長、できないんですよ、そういうことは。

これまでにも、自己責任決定の話、なぜしたかというと、市長の描く推進の計画と、それに伴って民間がついていくということもなかなか大変です。

なぜかというと、要するに、これからは観光産業も、見せるものから変化していくということになっていくじゃないですか。そういう中で、やっぱり受入体制にしても、簡単に言えば食べ物一つにしても、市内は市長も行かれるように、豊富にありますか。ないじゃないですかね。

だからこれからインバウンドも含めて、そっちにシフトしていくとするならば、そういったことが民間人も力を入れやすいようなサポートをするために、今、新法を使いながらやっていきましょうということでございますので、ここを最大限力を出していただいて、本当でやってもらいたい。

行政がいろんなことを力入れてやらんと、一般はできないんです、そういうことはね。お金でも考え方も全てにおいてですよ。この辺をしっかりお願いしていきたいなと思っております。

ところで、先ほどインバウンドが出ましたので、私は久田という地域に住んでおりますが、外国人が所有した物件が６軒、７軒あります。久田地区にですよ。それで、民泊とか経営してありますよね。ほかもろもろ。分かってありますか、こういうこと、実態調査してありますか、市長。してくださいよ。

だから、今先ほど言うように、日本人ができないのに、なぜ外国人ができるかということ。それは、対馬に来島する人たちの流れが、そういう流れですからできるということなんですね。だから、そこで本当で我々が考えなくちゃいけないことを、ここで改めましょうよ。もう少しね。やっぱりそういうふうに、分からないとこで外国人がたくさん、対馬を購入しながら営んである。

このインバウンドは特に、私の感じるとこで申し訳ございませんが、全て出来上がった形ですね。市長からしますと他力本願なんです、これは、インバウンドは。よそが勝手に来て勝手に帰るわけです。そうじゃなくて、国内を入れて、対馬をＰＲしようということが根底にあると思いますので、参考まで言いました。

この辺も調査しながら、なぜそうなるのかなと。久田地区にも７軒なかったら、どっかに泊まるわけですから。実態調査はなぜしないかというのはここなんです。してくれれば、実際分かるじゃないですか。だから、対馬在住の人が新たな投資がしにくいんじゃないんですかという話をしているんですね。ここも含めまして、よろしくお願いしておきます。

観光について、もう一つ苦言とは言いませんけども、今回も同僚の人たちがたくさんの交通アクセスの話で、ジェットフォイルも含めて話があっております。そういう中で市長の答弁があやふや。こうするんだというものがないんです。お願いはしてますよね、確かに。お願いは。お願いはしても、形とならなかったら、この対馬市観光振興推進計画が、何も生きてこんですよ。どういう立派なものをつくっても。

海上が、海上国道ともいいますか、それが不十分なら、この辺を一番の出発点だということで、受託者といいますか、請け負ったとこしっかり話合いしていただきたい。

これを解決するのには、市長、誰か職員か派遣でもして、実態調査してみませんか、九州郵船株式会社の。船員がおらんだけじゃなくて、いろんな障害があるかもしれませんよ。この間の説明では、定年で云々と言ってましたけど、民間企業なんですから、定年延長は何ぼでもできますよ。そういったことを具体的に話をせんから、こういう形になるんじゃないかなと思いますので、せめてこの辺は中身をですね。

先日も同僚議員が内部調査の話もしてありましたけども、外部からでもちょろっと話を聞き取り調査しても、重大な答えが出てきているようにありますよ。だから、もう少し中身に入って、市民のためになるようにしてください。あの立派な建物が生きるように。会社のために造っておるわけでも何でもないわけですから。

そういったことも考えながら、もう一度観光産業を盛り上げるために、皆さんの足を確保することを最優先に計画を進めていただきたい。これをやらない限りは進みませんので、一応ここはお願いをしておきます。よろしいでしょうか。

最後になりますが、先ほどから言いますように、庁舎問題。先ほど市長が、建設としたら、厳原地内に予定はしておるんだということなんですけどね。先ほど皆さんも聞いてあるとおりに、基金１４億円。いつの時代になるか分かりません。基金といえば災害があったら使えますから。これだけしか使わんちゅう基金じゃないのよね。何か突発的なことがあれば。

いろんなものを、いろんな角度で相談しながら、お願いしながら、検討という話も出ておりましたが、私が問題に毎回しているとこはここなんですね。皆さんが違法建築の中で日常業務をやっとることなんです。

だから市長、これはいつの時代になるか分かりません。基金ベースで計算しますとね。今、８０億円、１００億円かも分からんという中で――今１４億円じゃいつなるか分からんやないで

すか。それを考えたときに、私は合併当時に頭を戻して、分散業務でもして市民の安全を担保したらいかがでしょうかと言ってやる。どうですか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、現在の庁舎は、耐震指標のほうで０．６を大幅に下回っているということで、違法ではありませんけども、これが既存不適格ということになるということでございます。

そういう中で、今、議員のほうからも話がありましたように、分散化あたりをしながら、恐らく早めに庁舎等を改修すればどうかということだとは思うんですけども、この分散化の関係におきましても、厳原のこのまち中におきましては、恐らく交流センターぐらいしかないのかなという思いでおります。

ただ、こういったところは、今後どういったことがまだ考えられるのか、今後いろいろと検討はしてみるべきだというふうには思っております。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　市長、この話が十年一昔からやっていますね２人でですね。やっとるでしょう。そういう中ですぐまた１０年たつんです。もうおりませんよ。２人とも、間違いなく、ここには。だから、在任期間中にお願いしたいじゃないですか。できないならできないってはっきりしとるわけですから、数字から全てにおいて、分散して市民を守ることをやってくれませんか、そうせんと駄目です。

ついでの話ですが、余った建物がないかもしれませんが、シミュレーションかける中で、民間に貸さなかったら幾らでもあるじゃないですか。あったじゃないですか。だから、今、長期計画を見据えながら何でも事を運んでくださいと言っています。

だから、市長は分かっているはずですよ、庁舎は建たないということ、お金的にはね。宝くじでも当たっても建たんもん。そういうふうなことを考えてですね。

合併当時も、どんな話やったかはちょっと忘れましたけども、何せハードルが高いんですよ今建てるのが。ということはやっぱりそういう分散でもしながら、市民の安全を守る、職員の安全を守る、これに尽きると思うんですよ。その辺を考えてください。市長、どうですか。どこでもありますから。

今、ティアラの話もあってましたけど、いいじゃないですか。市民の方々が常に行く、常に行くということは何ですか。市民課ぐらいでしょう。そういったものを動かすとか考えなされたほうがいいんじゃないですか。

市長の代には絶対建ちません。比田勝さんの代ではね。はっきりしとるわけですから。そしたら、自分の代に命を守る行為をしてくださいといつも話しているじゃないですか。どうですか、

もう一度お願いします。立派な答弁してくださいよ。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに今、厳原庁舎の２階のほうで市民課関係の職員、そして、そこに多くの市民の方たちがいらしてますけども、こういった関係の職場のほうを、ティアラのほうの例えば今１階の元アドバンスソトバヤシさんが営業されていたあのフロア辺りでできるかどうか、そういったところは今後、可能かどうかも含めまして内部でいろいろと検討を進めてまいりたいと思います。

○議長（春田　新一君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ありがとうございます。検討は今までしてあるはずなんですよ。実行に移してください。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（春田　新一君）　以上で、波田政和君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（春田　新一君）　本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後１時54分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――